

# 科学技術イノベーション人材の 育成施策について

平成31年1月  
科学技術・学術政策局 人材政策課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 科学技術イノベーション人材の育成・確保

2019年度予算額(案) : 24,699百万円  
 (前年度予算額 : 25,862百万円)  
 ※運営費交付金中の推計額含む



## 科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成や活躍促進を図るための様々な取組を重点的に推進。

### 若手研究者等の育成・活躍促進

#### 我が国を牽引する若手研究者の育成・活躍促進

- ◆ **卓越研究員事業** 1,756百万円 (1,668百万円)  
 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を実施。
- ◆ **世界で活躍できる研究者戦略育成事業** 240百万円 (新規)  
 我が国の研究生産性の向上を図るため国内外の先進事例の知見を取り入れ、世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発し、トップジャーナルへの論文掲載や海外資金の獲得等に向けた支援体制など、研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築。
- ◆ **科学技術人材育成のコンソーシアムの構築** 272百万円 (1,242百万円)
- ◆ **テニュアトラック普及・定着事業** 39百万円 (66百万円)
- ◆ **データ関連人材育成プログラム** 303百万円 (252百万円)
- ◆ **研究人材キャリア情報活用支援 (JREC-IN Portal)** 126百万円 (125百万円)

#### 優秀な若手研究者に対する主体的な研究機会の提供

- ◆ **国際競争力強化研究員事業** 111百万円 (新規)  
 若手研究者の世界トップクラスの大学等における挑戦的な研究や、国際的なネットワーク形成を支援。
- ◆ **特別研究員事業** 15,627百万円 (15,857百万円)

#### イノベーションの担い手となる多様な人材の育成・確保

- ◆ **プログラム・マネージャーの育成・活躍推進** 117百万円 (140百万円)
- ◆ **次世代アントレプレナー育成事業 (EDGE-NEXT)** 384百万円 (357百万円) 大学  
 起業活動率の向上、アントレプレナーシップの醸成を目指し、我が国のベンチャー創出力を強化。

### 次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成

- ◆ **スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 支援事業** 2,219百万円 (2,219百万円) 高等学校  
 先進的な理数系教育を実施する高等学校等をSSHに指定し、支援。
- ◆ **グローバルサイエンスキャンパス事業** 419百万円 (514百万円) 小中学校
- ◆ **ジュニアドクター育成塾** 240百万円 (210百万円)  
 理数・情報分野で特に意欲や突出した能力を有する全国の小中学生を対象に、大学等が特別な教育プログラムを提供。

#### 各学校段階における切磋琢磨の場

科学技術、理科・数学への更なる関心向上、優れた素質を持つ生徒の発掘・才能の伸長。

- ◆ **サイエンス・インカレ** 65百万円 (54百万円)



#### 科学の甲子園



#### 国際科学技術コンテスト



#### 科学の甲子園ジュニア



研究者

ポストク

大学院

### 女性研究者の活躍促進

- ◆ **ダイバーシティ研究環境 実現イニシアティブ** 1,008百万円 (989百万円)

研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援。

- ◆ **特別研究員 (R P D) 事業** 930百万円 (930百万円)

優れた研究者が、出産・育児による研究中断後に、円滑に研究現場に復帰できるよう、研究奨励金を支給し、支援。(RPD: Restart Postdoctoral Fellowship)

- ◆ **女子中高生の理系進路 選択支援プログラム** 43百万円 (45百万円)

女子中高生の理系分野への興味・関心を高め、適切に理系進路を選択することが可能となるよう、地域で継続的に行われる取組を推進。

## 背景・課題

- 今後、**生産年齢人口の減少**が一層進む中、貴重な高度人材である**若手研究者の活用**を社会全体で無駄なく効率的に図ることが必要であり、**若手研究者と産学官の研究機関とのマッチングを促進**し、科学技術イノベーションの推進と我が国の持続的発展につなげていくことが必要。
- 特に、**産学官の研究機関が優れた若手研究者に安定かつ自立した研究環境を提供**し、自主的・自立的な研究に専念できるようにしていくことが我が国の研究力の向上を図る上で極めて重要。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 優れた若手研究者が産学官の研究機関において安定かつ自立した研究環境を得て自主的・自立的な研究に専念できるよう、研究者及び研究機関に対する支援を行う。

### 【事業の概要】

- ① 卓越研究員の受入れを希望する大学、研究開発法人、企業等からポストを募集し、一覧化して公開
- ② 若手研究者に対して卓越研究員の公募を行い、厳正な審査を経て文部科学省が若手の卓越した研究者を候補者として選定
- ③ その後、卓越した研究者とポストを提示した研究機関が交渉を行い、マッチングが成立した候補者について、文部科学省が卓越研究員として決定
- ④ 卓越研究員を受け入れた研究機関に対し、一定の期間、研究費等を支援

### 2019年度の改善点

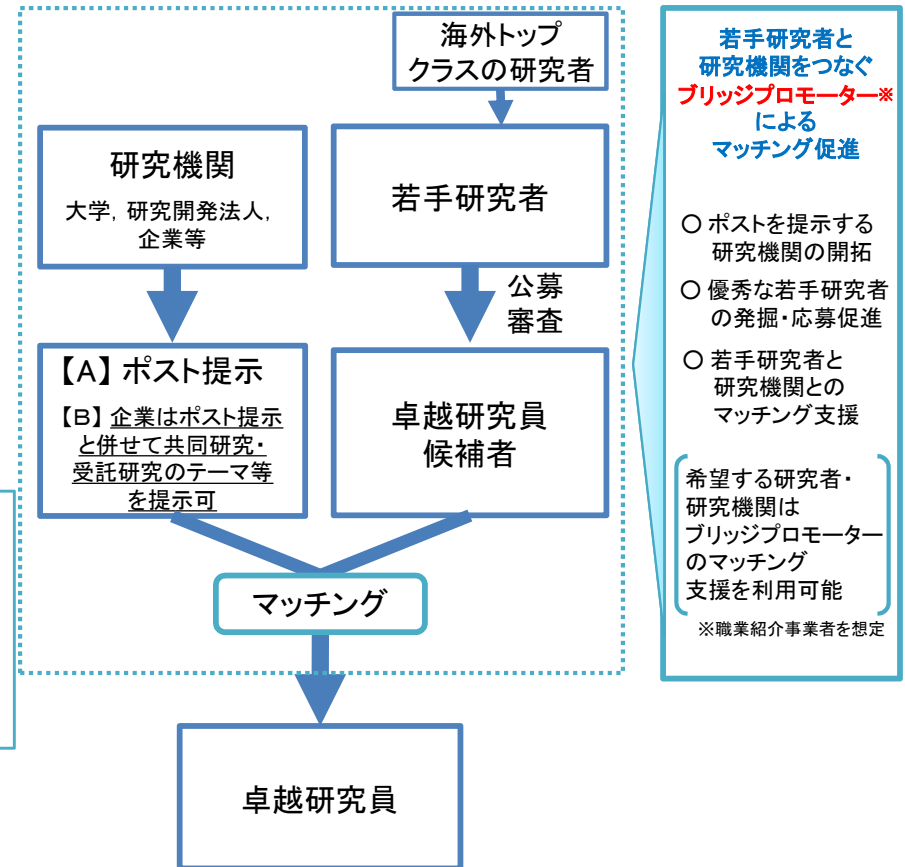
- 海外のトップクラスの研究機関で活躍し、帰国する研究者について特別枠を設け支援。
- 若手研究者と研究機関をつなぐブリッジプロモーターによるマッチング支援を導入
- 企業はポスト提示と併せて共同研究や受託研究のテーマ等を提示することができることとし、卓越研究員を雇用する企業が、当該卓越研究員を大学との産学連携活動に従事させる場合には、その間の産学連携活動費の1/2を上限（年間10百万円まで）に5年間支援することとする。（企業が1/2負担）※クロスアポイント制度や出向制度を活用した共同研究も想定。

### 【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等
- ✓ 人数：70名程度（2019年度新規分）
- ✓ 支援内容：【A】若手研究者の研究費 年間6百万円（上限）/人（2年間）<sup>1</sup>  
 研究環境整備費 年間2～3百万円（上限）/人（5年間）  
※1 人文・社会科学系は、400万円を上限  
 【B】産学連携活動費 年間最大10百万円（上限）/人（最長5年間）<sup>2</sup>

※2 補助率1/2とし、企業負担額を上限。共同研究等の開始が2年目の場合、1年目は研究環境整備費のみ措置。

### 【事業イメージ】



- 【A】従前と同様、若手研究者の研究費と研究環境整備費を支援
- 【B】企業が卓越研究員を共同研究又は受託研究に従事させる場合は産学連携活動費の1/2を支援  
※企業は【A】又は【B】を選択

# (参考)卓越研究員事業の実績(平成30年12月末時点)

	提示 ポスト数	応募者数	候補者数	採用決定者数		
				卓越 研究員	関連 研究者*	計
平成28年度	317(96)	849	176	87(5)	34(3)	121(8)
平成29年度	204(56)	517	170	72(3)	21(2)	93(5)
平成30年度	156(30)	494	200	53(3)	15(1)	68(4)

(注)( )内は企業から提示のあったポスト数及び企業に採用された研究者数。

※関連研究者とは、卓越研究員事業を通じて研究機関から提示のあったポストに採用された卓越研究員以外の若手研究者をいう。

## ○平成30年度研究機関別決定者数

	機関名	卓越 研究員数
1	室蘭工業大学	1
2	北見工業大学	1
3	岩手大学	1
4	東北大学	1
5	山形大学	2
6	筑波大学	1
7	群馬大学	1
8	千葉大学	2
9	東京大学	1
10	東京工業大学	2
11	電気通信大学	1
12	横浜国立大学	1
13	新潟大学	1
14	金沢大学	4
15	岐阜大学	1
16	名古屋大学	2
17	京都大学	1
18	京都工芸繊維大学	1

	機関名	卓越 研究員数
19	奈良先端科学技術大学院大学	1
20	島根大学	1
21	岡山大学	2
22	広島大学	1
23	九州大学	2
24	熊本大学	1
25	大阪府立大学	1
26	東海大学	2
27	物質・材料研究機構	4
28	日本原子力研究開発機構	4
29	理化学研究所	1
30	産業技術総合研究所	3
31	宇宙航空研究開発機構	1
32	株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ	1
33	株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所	1
34	日本電子株式会社	1
35	公益財団法人がん研究会	1

計 53名(35機関)

# (参考)卓越研究員事業の実施プロセス (2019年度公募) (案)

## 研究機関

## 文部科学省

## 日本学術振興会 (JSPS)

## 若手研究者 (申請者/申請予定者)

平成31年1月下旬～4月初旬

①研究機関が  
ポストを提示

1月30日

機関向け公募説明会

○文部科学省は、主に、機関の属性、雇用形態、研究環境等の形式的な要件に関する適合性を確認

○当該ポストで推進できる研究内容や雇用条件など、ポストの魅力については、申請者(研究者)が判断

2月下旬(予定)

※その後も随時追加公開

②ポストの公開

3月下旬～4月下旬

③若手研究者が  
「卓越研究員」に申請

5月初旬

④機関に申請者情報連絡

当事者間交渉(事前連絡)

当事者間交渉(事前連絡) (※)

当事者間交渉(事前連絡)

5月～6月

⑤審査、  
候補者決定

7月初旬

⑥機関に候補者リスト連絡

⑦当事者間交渉

7月上旬～9月

当事者間交渉 (※)

7月初旬

⑥申請者に採否の通知

⑦当事者間交渉

卓越研究員決定、  
研究費等の支援

(交渉が完了した支援希望機関に対して)

※当事者間交渉(事前連絡を含む)、は、各研究機関と、申請した(予定を含む)若手研究者又は卓越研究員候補者が自由に交渉。いずれの場合にも、各機関は、公正で透明性の高いプロセスを経て選考。

<卓越研究員の活躍フィールド>

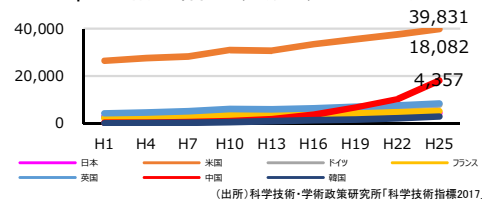
国公立大学、国立研究開発法人、民間企業等



## 背景・課題

- 論文数に関する我が国の国際的地位が質的・量的ともに低下してきている中、**人口減少局面**にある我が国が研究力の強化を図るためには、**研究者の研究生産性の向上**を図ることが急務。
- そのため、海外の取組を参考に、**世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発**するとともに、**研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築**し、研究成果が世界で評価され、海外からも研究資金を得られるような、世界水準の研究・マネジメント能力を身に付けた**世界で活躍できる研究者の戦略的育成を推進**。

■ Top10%補正論文数(分数カウント)



## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 我が国の研究生産性の向上を図るため、国内の研究者育成の優良事例に海外の先進事例の知見を取り入れ、**世界トップクラスの研究者育成に向けたプログラムを開発**し、世界のトップジャーナルへの論文掲載や海外の研究費獲得等に向けた支援体制など、**研究室単位ではなく組織的な研究者育成システムを構築**し、**優れた研究者の戦略的育成を推進する大学・研究機関を支援**する。
- また、より効果的なプログラムを効率的に開発するため、各機関の代表者や学識経験者等で構成する「**研究者育成プログラム開発普及委員会**」を設け、**各機関の知見の集約・分析**や**海外の先進事例等に関する情報の収集・分析**を行い、我が国の研究者育成プログラムの**標準モデルや共通メニューの開発**を行い、各機関にフィードバックして**プログラムの不断の改善**を図るとともに、学会や大学団体等とも連携し、開発されたプログラムの普及に向けた方策の検討を行う。

### 【事業スキーム】

- ✓ 支援対象：国公立大学，研究開発法人  
(複数機関によるコンソーシアム形式も可能)
- ✓ 支援機関：2機関程度
- ✓ 事業規模：81百万円程度／機関・年(10年間)
- ※その他、「研究者育成プログラム開発普及委員会」の設置・運営(75百万円)

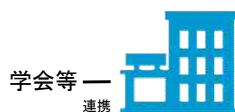
### 【支援の条件】

- Society5.0における変化も見据え、文理の壁を越えて研究者の成長と科学技術イノベーションの創出を促す多様なバックグラウンドを有する研究者が相互研鑽を積む環境形成

海外研究機関で研究経験がある帰国研究者，外国人研究者，異分野・異機関の研究者が切磋琢磨する環境  
\* 参加条件を定めて他機関の研究者も受入れ

- 人事給与マネジメント改革など若手研究者の確保に向けた自発的取組を行っていること

## イメージ



知見の共有

フィードバック



・プログラム開発・実証費  
(研究費，渡航滞在費等を含む)

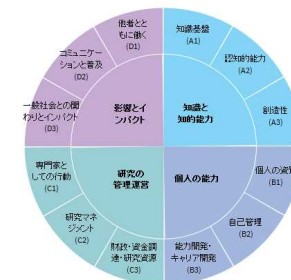
### ■ 研究者育成プログラム開発普及委員会(仮称)

- 各機関の知見等を集約・分析し、各機関にフィードバック
- 学会・大学団体等と連携し、プログラムの普及方策の検討

・会議開催・事務局経費  
・情報収集・分析経費

### ■ 英国 VitaeのResearchers Development Framework (RDF)

世界トップクラスの研究者育成に向けてプログラムを可視化・体系化し戦略的に研究者を育成



### <研究者育成プログラムのイメージ例>

教育プログラム	<input type="checkbox"/> 海外研鑽機会の提供(海外研究機関での研究活動等)
	<input type="checkbox"/> 異分野交流機会の提供(異分野研究者との合同合宿等)
研究指導	<input type="checkbox"/> トランスファラブルスキルの育成(研究・マネジメント能力等)
	<input type="checkbox"/> メンターによる指導
研究環境改善	<input type="checkbox"/> エフォート管理(研究時間の確保)
	<input type="checkbox"/> 研究施設・研究機器の共同利用

+

- 各機関においてプログラムのメニューや実施方法，育成環境，実施体制等について実証。

## 背景・課題

- 人口減少局面にある我が国において、研究者コミュニティの持続可能性を確保するとともに、多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化していくためには、女性研究者の活躍促進が重要であるが、女性研究者割合を諸外国と比較すると依然として低い水準にあり、特に上位職に占める女性研究者の割合が低い状況。
- そのため、女性研究者が出産、育児等のライフイベントにかかわらず研究を継続できる環境の整備や、女性研究者の研究力向上を通じた上位職登用の促進が必要。

## 事業概要

### 事業の目的・目標

- 研究と出産・育児等のライフイベントとの両立や女性研究者の研究力向上を通じたリーダーの育成を一体的に推進するダイバーシティ実現に向けた大学等の取組を支援する

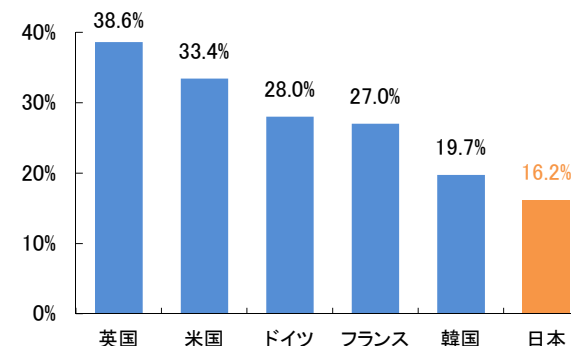
### ダイバーシティ実現に向けた取組の支援

- 対象機関：大学、国立研究開発法人等
- 事業期間：6年間（うち補助期間3年間）
- 支援取組：
  - ① 牽引型 複数の機関が連携し、地域や分野における女性研究者の活躍を牽引する取組
  - ② 先端型 女性研究者の海外派遣等を通じた上位職登用の一層の推進等の取組
  - ③ 全国ネットワーク中核機関(群)  
国内外の取組動向の調査や経験、知見の全国的な普及・展開を図るための全国ネットワークの構築を目指す取組
- 支援金額：50百万円程度/年（新規10機関程度）

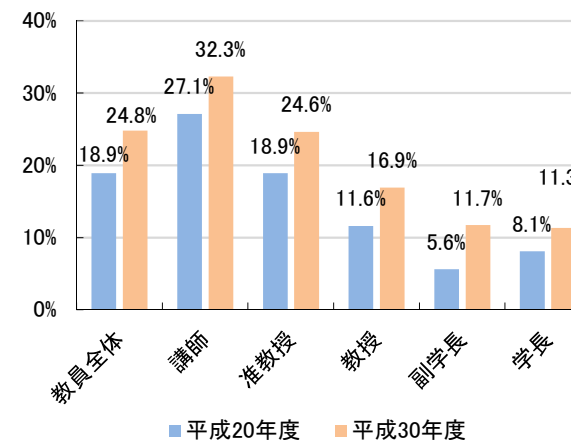
### 調査分析等の実施

- 対象機関：大学、国立研究開発法人等
- 事業期間：2年間
- 支援取組：女性研究者の活躍促進に資する海外の優れた取組に関する調査分析
- 支援金額：25百万円程度/年

■女性研究者割合の国際比較



■大学における職位別の女性教員の在籍割合



※学校基本統計等より作成

# 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」 2019年度公募スケジュール（予定）

---



公募説明会	:	2019年3月初旬
公募開始	:	3月初旬
公募締切	:	4月下旬
審査(書面・面接)	:	5～7月頃
選定機関決定	:	7月下旬



## 背景・課題

- 世界で最初に本格的な少子高齢化を迎えた我が国が豊かな社会を実現するためには、我が国が強みを発揮できる技術とAI技術を融合して産業競争力の強化につなげつつ、減少する労働力を補完し、生産性の向上等に資するAI技術が必要であるが、我が国ではAI技術を使いこなすIT人材が大幅に不足すると推計されている。
- IT人材のうち特に、データサイエンティストのチームを率いて、組織におけるビッグデータ利活用を先導できる「棟梁レベル」の人材が不足すると見込まれており、高度人材に対する教育プログラムの展開が必要。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 各分野の博士人材等について、データサイエンス等を活用しアカデミア・産業界を問わず活躍できる棟梁レベル人材を育成する研修プログラムを開発・実施する。

### 【事業概要・イメージ】

- 大学、企業等がコンソーシアムを形成し、博士課程学生・博士号取得者等の高度人材に対して、データサイエンス等のスキルを習得させる研修プログラムを開発・実施し、キャリア開発の支援を実施することにより、高度データ関連人材を育成し、社会の多様な場での活躍を促進。



- ✓ 支援対象経費：  
研修プログラムの開発・実施経費（補助率1/2）  
研修プログラムの全国的な普及・展開経費（補助額20百万円程度）
- ✓ 事業期間：  
最大8年間（補助対象期間は5年間） ※3年目に中間評価を実施
- ✓ 支援拠点数：全国ネットワークの構築新規1拠点（コンソーシアム）

### 【平成29・30年度の実績】

以下の5機関を選定

- ・東京医科歯科大学(ビッグデータ医療・AI創薬コンソーシアム)
- ・電気通信大学(データアントレプレナーフェロープログラム)
- ・大阪大学(データ関連人材育成関西地区コンソーシアム)
- ・早稲田大学(高度データ関連人材育成プログラム)
- ・北海道大学(次世代スマートインフラ管理人材育成コンソーシアム)

卓越研究員事業

世界で活躍できる研究者戦略育成事業

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

データ関連人材育成プログラム

< お問い合わせ先 >

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室

Email: [kiban@mext.go.jp](mailto:kiban@mext.go.jp) 電話 : 03-6734-4021

## 背景・課題

○ 将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術関係人材の育成を中等教育段階から体系的に実施することが不可欠。

「第5期科学技術基本計画」(抄)(平成28年1月22日 閣議決定)

・ 国は、学校における「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(いわゆるアクティブ・ラーニング)」の視点からの学習・指導方法の改善を促進するとともに、先進的な理数教育を行う高等学校等を支援する。

「全ての子どもたちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ(第9次提言)」(抄)(平成28年5月20日 教育再生実行会議決定)

・ 国、地方公共団体、大学、高等学校等は、スーパーサイエンスハイスクール...の取組の成果を検証しつつ、効果の上がっている取組を推進するとともに、優良事例の普及を図る。

## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

- 先進的な理数系教育を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」に指定し支援。
- 中等教育段階から体系的に先進的な理数系教育の実践を通じて、
  - ・ 生徒の科学的能力を培い、将来のイノベーションの創出を担う科学技術関係人材の育成を図る。
  - ・ 高等学校等の理数系の教育課程の改善に資する実証的資料を得る。

- ✓ 2019年度 新規指定校数:30件程度
- ✓ 指定期間:5年、支援額:年間 7.5~12百万円、指定校数:204校(H30現在)

- 学習指導要領の枠を超え、理数系分野を重視した教育課程を編成
- 主体的・協働的な学び(いわゆるアクティブ・ラーニング)を重視
- 研究者の講義による興味関心の喚起やフィールドワーク等による自主研究の取組
- 上記取組を高大連携や企業連携により高度に実施 等

### <重点枠>

- ✓ 最長5年、支援額:年間 5~13百万円、重点枠数:14校(H30現在)
- SSH指定校の中で、さらに、以下の取組を行う学校を重点枠に指定
  - ・ 育成する人材像から導かれる資質能力を段階的に育成・評価する手法を大学と共同して開発・実証することにより、将来、我が国の科学技術を牽引する人材の育成を図る。【**高大接続**】
  - ・ 理数系の教育課程や指導法、ネットワーク等を都道府県レベルで広域に普及することにより、地域全体の理数系教育の質の向上を図る。【**広域連携**】
  - ・ 海外の研究機関等と定常的な連携関係を構築し、国際性の涵養を図るとともに、将来、海外の研究者と共同研究ができる人材の育成を図る。【**海外連携**】
  - ・ 地球規模の社会問題について、NPO法人や企業等との連携の下、科学的な課題研究を行うことにより、新たな価値の創造を志向する人材の育成を図る。【**地球規模の社会共創**】

### 【これまでの成果】

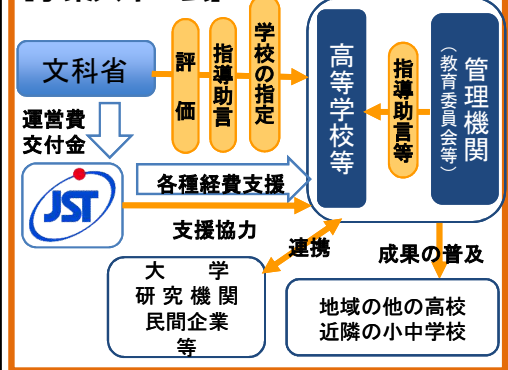
#### 高度な課題研究

(平成30年度SSH生徒研究発表会表彰テーマ)

- 文部科学大臣表彰:鹿児島県立国分高等学校「幸屋火砕流の影響から7300年立ち直れていない? ~大隅諸島のエンマコガネと幸屋火砕流の関係~」
- 国立研究開発法人科学技術振興機構賞
  - ・ 福島県立福島高等学校「プラズマによる流体制御の研究」
  - ・ 名古屋市立向陽高等学校「ユリの花粉管誘導Ⅱ~誘導を無視して伸びる花粉管の謎~」

⇒ 「課題研究」(科学に関する課題を設定し、観察・実験等を通じた研究)において、大学・企業等の支援を受けながら、**主体的・協働的に学習・研究を実施**

### 【事業スキーム】



### 海外連携



(学校法人立命館立命館高等学校)

- 海外20カ国・地域から高校生が集まる「Japan Super Science Fair」を開催
- 国境や文化を越えたグループで、研究発表に加えて食糧問題に関する科学アクティビティに取組む

⇒ **国際的に活躍**する意欲能力の育成

### 広域共同研究



(福島県立福島高等学校)

- 第30回CASTIC日本代表として参加
- 福島県内外及び海外の線量調査を実施し、結果を国内はじめ、フランス、イタリアの発表会で紹介
- 論文は英国物理学会発行の論文誌に掲載

⇒ **国や地域を越えた社会**への貢献

## 背景・課題

グローバル化の進む現在、国際的に活躍できる人材の輩出は急務。学校教育では対応しきれない、個に応じた学習による才能の伸長も重要。

### 「第5期科学技術基本計画」(抄)(平成28年1月22日閣議決定)

我が国が科学技術イノベーションを持続的に向上していくためには、初等中等教育及び大学教育を通じて、次代の科学技術イノベーションを担う人材の育成を図り、その能力・才能の伸長を促すとともに、理数好きの児童生徒の拡大を図ることが重要である。このため、創造性を育む教育や理数学習の機会の提供等を通じて、優れた素質を持つ児童生徒及び学生の才能を伸ばす取組を推進する。

### 「第2期教育振興基本計画」(抄)(平成25年6月14日閣議決定)

理数系人材の養成に向けた取組を総合的に推進することにより、理数好きの生徒等を拡大するとともに、優れた素質を持つ生徒等を発掘し、その才能を伸ばし、科学技術人材を戦略的・体系的に育成・確保する。

### 「未来投資戦略2018 —Society5.0の実現に向けた改革—」(抄)(平成30年6月15日閣議決定)

・グローバルサイエンスキャンパスなどの理数系に優れた資質を持つ子供たちの才能の更なる伸長を図る取組を充実するとともに、情報オリンピックなどの科学オリンピックで優秀な成績を収めた高校生などの特に卓越した資質能力を有する者に対して、初等中等教育段階におけるAI等の先端分野について学びを進め、更に資質能力を高める機会の提供等の取組を行う。

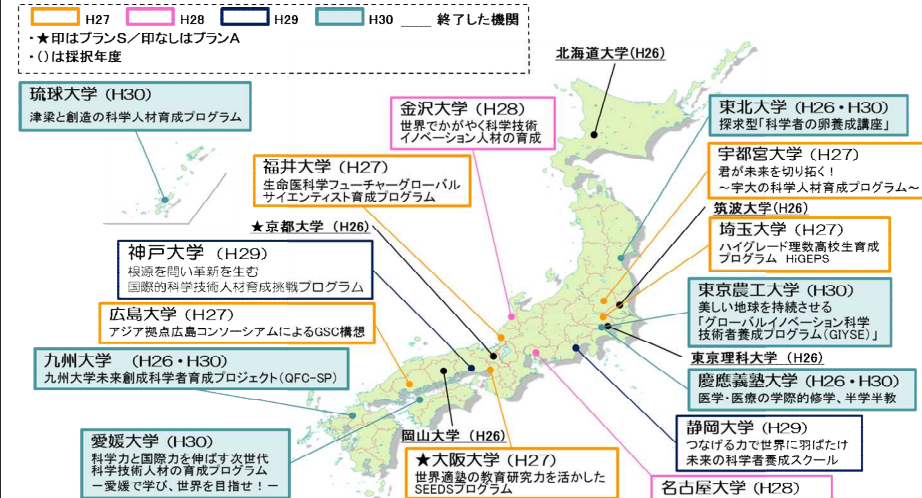
## 事業概要

### 【事業の目的・目標】

将来グローバルに活躍し得る次世代の傑出した科学技術人材の育成

### 【事業概要・イメージ】

地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等の幅広い発掘、及び、**選抜者の年間を通じた高度で実践的講義や研究を実施する大学を支援**。併せて、国際性・専門性の観点から幅広い視野を付与。



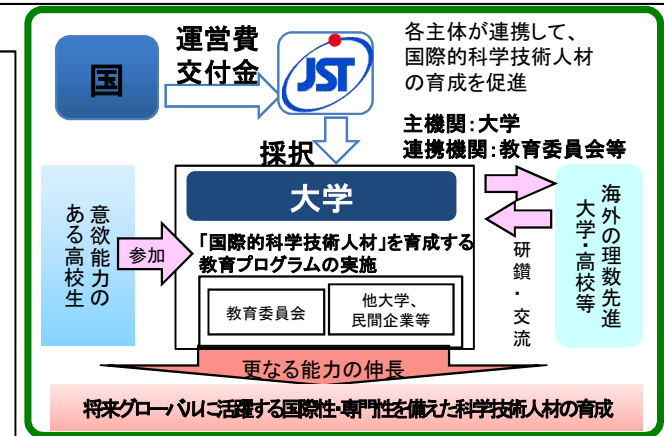
※H30は、6件の企画が実施され、全国で1千人超の高校生がGSCのプログラムを受講している。

### 【事業スキーム】

- ✓ 採択期間: 4年間
- ✓ 実施規模: 15機関(H30現在)  
2019年度 新規採択件数: 4件
- ✓ 支援額上限: 2,500万円～3000万程度/1機関・1年間
- ✓ 対象: 高校生
- ✓ 受講生数: 40名程度/年

### 【特徴】

- 応募者の中から受講生を選抜し、講義や演習などを中心とした、**研究活動の素養**となる基礎的な幅広い知識や技法を身につける育成プログラムを行う(一次段階)。その後重点的に育成する者を選抜し**研究活動**などを通して個の能力をさらに伸長させる(二次段階)。
- 二次段階(研究活動)を重視し、より高いレベルの研究の長期間化を目指す。  
→TAや指導教員等からのケアの充実(個に応じた指導体制の構築)  
→一次段階の短期化や募集時の選抜後**すぐに二次段階を開始**することも可能
- 異分野融合や地域性を生かした取組を推進



### 【AI枠】

- 新たに「情報科学の達人」育成官民協働プログラムを設ける。
- 民間団体の資金協力を得て、情報オリンピックなどの科学オリンピックで優秀な成績を収めた高校生に国際的な研究活動の機会等を与え、高校段階から世界で活躍するトップレベルIT人材育成を図る。



## ○スーパーサイエンスハイスクール支援事業

- ・平成30年12月25日(水)～平成31年2月8日(金)18時:公募期間(高大接続枠)  
※高大接続枠以外の公募受付は終了  
※高大接続枠への申請を希望する場合は、平成31年1月31日(木)18時までには要連絡
- ・平成31年1月下旬～2月中旬:審査(高大接続枠以外)
- ・平成31年2月下旬～3月上旬:審査(高大接続枠)
- ・平成31年3月下旬:採択結果の公表

## ○グローバルサイエンスキャンパス

- ・平成31年1月18日(金)～3月1日(金)正午:公募期間
- ・平成31年3月下旬:書類審査
- ・平成31年4月上旬～中旬:面接審査
- ・平成31年5月中旬～6月上旬:採択結果の通知・公表

お問合せ先は資料後半 (p.20) に記載



**科学技術振興機構(JST)の  
競争的資金等の公募の  
問合せ先について**

科学技術イノベーションの総合的な推進機関として、基礎研究から実用化まで一貫した研究開発の支援とともに、我が国の強みを支える科学技術基盤の強化を目指す。2019年度においては、「第5期科学技術基本計画」、「統合イノベーション戦略」、及び法人自らの改革プランである「濱口プラン」等を踏まえ、変容する社会に対応し、イノベーションにつながる新たな潮流を生み出す独創的なネットワーク型研究所として、ハイリスク・ハイインパクトな研究開発等の推進に積極的に取り組む。

## ■ 未来を共創する研究開発戦略の立案・提言

研究開発戦略センター(CRDS)

中国総合研究・さくらサイエンスセンター(CRCC)

低炭素社会戦略センター(LCS)

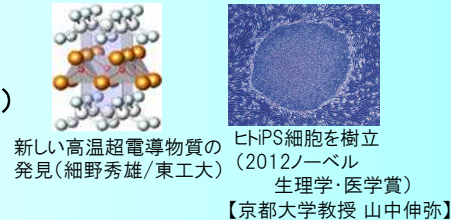
研究開発戦略立案のための情報基盤システム整備

## ■ 知の創造と経済・社会的価値への展開

### 戦略的な研究開発の推進

#### ・戦略的創造研究推進事業

新技術シーズ創出	42,444百万円(43,410百万円)
先端的低炭素化技術開発	4,886百万円(5,003百万円)
社会技術研究開発	1,421百万円(1,417百万円)



### 未来社会に向けたハイインパクトな研究開発の推進

未来社会創造事業	6,500百万円(5,500百万円)
・ムーンショット型研究開発制度の創設	
2018年度第2次補正予算額(案)	80,000百万円
2019年予算額(案)	1,600百万円
※文部科学省からの補助金により基金を造成して実施	

### 人材、知、資金の好循環システムの構築

研究成果最適展開支援プログラム(A-STEP)	7,083百万円(7,674百万円)
大学発新産業創出プログラム(START)	1,748百万円(1,784百万円)
共創の場形成支援(COI、リサコン、OPERA、イノベハブ)	12,641百万円(12,936百万円)



### 国際共同研究・国際交流・科学技術外交の推進

地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)	1,777百万円(1,718百万円)
・戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)	1,034百万円(959百万円)
・日本・アジア青少年サイエンス交流事業	2,110百万円(2,070百万円)



### 情報基盤の強化

科学技術情報連携・流通促進事業	2,755百万円(2,750百万円)
・ライフサイエンスデータベース統合推進事業	1,211百万円(1,211百万円)



社会・経済の変革をもたらす  
 科学技術イノベーションの創出

## ■ 未来共創の推進と未来を創る人材の育成

### 未来の共創に向けた社会との対話・協働の深化

未来共創推進事業	3,021百万円(2,607百万円)
----------	--------------------



### イノベーションの創出に資する人材の育成

研究人材キャリア情報活用支援事業	126百万円(125百万円)
プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム	117百万円(140百万円)
研究公正推進事業(JST計上分)	42百万円(42百万円)

### 未来を創る次世代イノベーション人材の重点的育成

次世代人材育成事業	
- スーパーサイエンスハイスクール支援	2,219百万円(2,219百万円)
- 科学技術コンテストの推進	718百万円(769百万円)
- 大学等と連携した科学技術人材育成活動の実践・環境整備支援	848百万円(936百万円)
・グローバルサイエンスキャンパス	419百万円(514百万円)
・ジュニアドクター育成塾	240百万円(210百万円)
・女子中高生の理系進路選択支援プログラム	43百万円(45百万円)



事業名	プログラム名		2019 公募	事業名	プログラム名		2019 公募		
戦略的創造研究推進事業	新技術シーズ創出	CREST	○	未来社会創造事業	探索加速型		○		
		さきがけ	○		大規模プロジェクト型		○		
		ACT-X	○						
		ERATO	○						
	社会技術研究開発			○	国際科学技術共同研究推進事業	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SICORP)	○		
					戦略的国際共同研究プログラム(SATREPS)	○			
研究成果展開事業	研究成果最適展開支援プログラム	旧ステージ I	産業ニーズ対応	—	イノベーションハブ構築支援事業			—	
			戦略テーマ重点	—	ライフサイエンスデータベース統合推進事業	統合化推進プログラム		—	
		機能検証フェーズ	試験研究	○	知財活用支援事業	大学等知財基盤強化支援(権利化支援)		○	
			実証研究	○		大学等知財基盤強化支援(人的サポート)	発明相談、戦略相談、知財マネジメント整備支援	○	
		産学共同フェーズ	シーズ育成	○		大学等知財基盤強化支援(パッケージ化)		技術移転人材の育成(OJT形式の研修実施)	○
				○				知財譲受	—
	企業主導フェーズ	NexTEP-A	○	目利き人材育成			○		
		NexTEP-B	○						
	戦略的イノベーション創出推進プログラム			—	次世代人材育成事業	スーパーサイエンスハイスクール支援		○	
	産学共創基礎基盤研究プログラム			—		国際科学技術コンテスト支援事業		—	
	センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム			—		科学の甲子園、科学の甲子園ジュニア		○	
	地域産学バリュープログラム(旧マッチングプランナープログラム)			—		グローバルサイエンスキャンパス		○	
	大学発新産業創出プログラム(START)			○		ジュニアドクター育成塾		○	
	世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム			—		女子中高生の理系進路選択支援プログラム		○	
	産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム(OPERA)			○		アジアサイエンスキャンプ		○	
	先端計測分析技術・機器開発プログラム			—		未来共創推進事業		未来共創イノベーション活動支援	○
	産学共同実用化開発事業(NexTEP)	一般タイプ	○	STI for SDGsアワード(仮称)				○	
		未来創造ベンチャータイプ	○	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)		○			
	出資型新事業創出支援プログラム(SUCCESS)			○	プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム		○		



# 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) における2019年度公募について

事業名	プログラム名	H30年度の公募		2019年度の公募予定		問い合わせ先
戦略的創造研究推進事業	新技術シーズ創出	CREST	○ 平成30年4月10日～平成30年6月5日(終了)	○	2019年4月頃公募開始予定	戦略研究推進部 電話: 03-3512-3530 メール: rp-info@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/">https://www.jst.go.jp/kisoken/crest/</a>
		さきがけ	○ 平成30年4月10日～平成30年5月29日(終了)	○	2019年4月頃公募開始予定	戦略研究推進部 電話: 03-3512-3530 メール: rp-info@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/">https://www.jst.go.jp/kisoken/presto/</a>
		ACT-X	—	○	2019年4月頃公募開始予定	戦略研究推進部 電話: 03-3512-3530 メール: rp-info@jst.go.jp
		ERATO	○ 研究総括(研究代表者)候補の推薦(他薦)公募を実施	○	研究総括(研究代表者)候補の推薦公募を実施 ※公募は通年で実施しているが、2019年度向けにはH30.11月末締切	研究プロジェクト推進部 電話: 03-3512-3528 メール: eratowww@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/erato/">https://www.jst.go.jp/erato/</a>
	社会技術研究開発	○	[人と情報のエコシステム研究開発領域] 平成30年4月13日～平成30年6月13日(終了) [科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム] 平成30年5月11日～平成29年6月11日(終了)	○	[人と情報のエコシステム研究開発領域] [科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム] [SDGsの達成に向けた課題解決・共創プログラム(仮)] 2019年4月以降公募開始予定	社会技術研究開発センター企画運営室 電話: 03-5214-0132 メール: boshu@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/ristex/">https://www.jst.go.jp/ristex/</a>
未来社会創造事業	探索加速型	○	平成30年6月12日～平成30年7月31日正午(終了)	○	2019年4月頃公募開始予定	未来創造研究開発推進部 電話: 03-6272-4004 メール: kaikaku_mirai@jst.go.jp <a href="http://www.jst.go.jp/mirai/jp/">http://www.jst.go.jp/mirai/jp/</a>
	大規模プロジェクト型	○	平成30年6月12日～平成30年7月31日正午(終了)	○	2019年4月頃公募開始予定	未来創造研究開発推進部 電話: 03-6272-4004 メール: kaikaku_mirai@jst.go.jp <a href="http://www.jst.go.jp/mirai/jp/">http://www.jst.go.jp/mirai/jp/</a>
国際科学技術共同研究推進事業	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)	○	平成30年9月11日～平成30年11月12日(終了)	○	2019年9月中旬～2019年11月中旬 公募予定	国際部SATREPSグループ 電話: 03-5214-8085 メール: global@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/global/">https://www.jst.go.jp/global/</a>
	戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)	○	[日本-EU「災害初期対応技術」共同研究] 平成30年3月～8月(終了) [EIG CONCERT Japan「超空間制御による機能材料」] 平成30年4月～6月(終了) [e-ASIA共同研究プログラム「材料(ナノテクノロジー)」「農業(食料)」] 平成31年1月～5月(募集中) [日本-ロシア共同研究] 平成31年1月以降公募開始予定	○	[e-ASIA共同研究プログラム 分野未定] 公募予定 [EIG CONCERT Japan 分野未定] 公募予定	国際部事業実施グループ 電話: 03-5214-7375 メール: intl@jst.go.jp <a href="http://www.jst.go.jp/inter/">http://www.jst.go.jp/inter/</a>



# 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) における2019年度公募について

事業名	プログラム名		H30年度の公募		2019年度の公募予定		問い合わせ先	
研究成果最適展開 支援プログラム	旧ステージ I	産業ニーズ対応	—		—		産学連携展開部テーマ型研究グループ 電話: 03-3238-7682 メール: kyousou@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/a-step/	
		戦略テーマ重点	—		—		産学連携展開部テーマ型研究グループ 電話: 03-3238-7682 メール: s-innova@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/a-step/	
	機能検証フェーズ	試験研究	○	[第一回]平成30年3月15日～平成30年5月15日(終了) [第二回]平成30年7月11日～平成30年9月11日(終了)	○	[第一回]2019年3月頃公募開始予定 [第二回]2019年5月頃公募開始予定	産学連携展開部地域イノベーショングループ 電話: 03-6272-4732 メール: mp@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/mp/	
		実証研究	○	平成30年7月11日～平成30年9月11日(終了)	○	2019年5月頃公募開始予定		
	産学共同フェーズ	シーズ育成	○	平成30年3月15日～平成30年5月10日(終了)	○	2019年3月頃公募開始予定	産学連携展開部研究支援グループ 電話: 03-5214-8994 メール: a-step@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/a-step/	
	企業主導フェーズ	NexTEP-A	○	通年募集 [第一回]平成30年4月2日～平成30年7月31日(終了) [第二回]平成30年8月1日～平成30年11月30日(終了) [第三回]平成30年12月1日～平成31年3月29日(募集中)	○	2019年4月頃公募開始予定	産学共同開発部 電話: 03-6380-8140 メール: jtsuyoka@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/h30nextep-a-1.html	
		NexTEP-B	○	平成30年3月15日～6月8日(終了)	○	2019年3月頃公募開始予定		
	研究成果展開事業①	戦略的イノベーション創出推進プログラム		—		—		産学連携展開部テーマ型研究グループ 電話: 03-3238-7682 メール: s-innova@jst.go.jp http://www.jst.go.jp/s-innova/
		産学共創基礎基盤研究プログラム		—		—		産学連携展開部テーマ型研究グループ 電話: 03-3238-7682 メール: kyousou@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/kyousou/
		センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム		—		—		イノベーション拠点推進部COIグループ 電話: 03-5214-7997 メール: coi@jst.go.jp http://www.jst.go.jp/coi/
	大学発新産業創出プログラム(START)		○	[事業プロモーター支援型] 平成29年10月5日～平成29年11月29日(終了) [プロジェクト支援型(第1次申請)] 平成30年1月16日～平成30年5月9日(終了) [社会還元加速プログラム(SCORE)] 平成30年4月16日～平成30年6月5日(終了)	○	[事業プロモーター支援型] 2019年1月17日～2019年3月18日正午(募集中) [プロジェクト支援型(第1次申請)] 2019年3月頃公募開始予定 [社会還元加速プログラム(SCORE)] 2019年5月頃公募開始予定	産学連携展開部START事業グループ 電話: 03-5214-7054 メール: start-boshu@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/start/	
	世界に誇る地域発研究開発・実証拠点(リサーチコンプレックス)推進プログラム		—		—		イノベーション拠点推進部COIグループ 電話: 03-5214-7997 メール: rc@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/rc/	





# 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) における2019年度公募について

事業名	プログラム名		H30年度の公募	2019年度の公募予定	問い合わせ先	
研究成果展開事業②	産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム (OPERA)		○ ・オープンイノベーション機構連携型 平成30年4月12日～6月22日(終了) ・共創プラットフォーム育成型 平成30年3月23日～5月31日(終了)	○ ・オープンイノベーション機構連携型 2019年4月頃公募開始予定 ・共創プラットフォーム育成型 2019年3月頃公募開始予定	イノベーション拠点推進部COIグループ 電話: 03-6272-3816 メール: opera@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/opera/	
	先端計測分析技術・機器開発プログラム		—	—	産学連携展開部先端計測グループ 電話: 03-3512-3529 メール: sentan@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/sentan/	
	産学共同実用化開発事業 (NextTEP)	一般タイプ	○	通年募集 [第一回]平成30年3月31日～平成30年7月31日(終了) [第二回]平成30年8月1日～平成30年11月30日(終了) [第三回]平成30年12月1日～平成31年3月30日(募集中)	○ 2019年4月頃公募開始予定	産学共同開発部 電話: 03-6380-8140 メール: jitsuyoka@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/jitsuyoka/
		未来創造ベンチャータイプ	○	通年募集 [第一回]平成30年3月31日～平成30年7月31日(終了) [第二回]平成30年8月1日～平成30年11月30日(終了) [第三回]平成30年12月1日～平成31年3月30日(募集中)	○ 2019年4月頃公募開始予定	
	出資型新事業創出支援プログラム (SUCCESS)		○	随時相談受付	○ 随時相談受付	産学共同開発部起業支援室 電話: 03-6380-9014 メール: entre@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/entre/
知財活用支援事業	大学等知財基盤強化支援(権利化支援)		○ 通年募集中	○ 通年募集予定	知的財産マネジメント推進部大学知財支援グループ 電話: 03-5214-8413 メール: kenri@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/chizai/pat/p_s_00summary.html	
	大学等知財基盤強化支援(人的サポート)	発明相談、戦略相談、知財マネジメント整備支援	○ 随時相談受付	○ 随時相談受付予定	知的財産マネジメント推進部大学知財支援グループ 電話: 03-5214-8413 メール: j-sup@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/chizai/pat/p_u_support_application.html	
		技術移転人材の育成(OJT形式の研修実施)	○ 平成30年7月～平成30年11月(終了)	○ 募集時期検討中		
	大学等知財基盤強化支援(パッケージ化)	知財譲受	—	—	知的財産マネジメント推進部知財集約・活用グループ 電話: 03-5214-8293 メール: shuuyaku@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/chizai/shuuyaku.html	
目利き人材育成		○	コース別に募集	○ コース別に募集予定(2019年5月以降)	産学連携展開部産学連携プロモーショングループ 電話: 03-5214-7519 メール: mekiki@jst.go.jp	
イノベーションハブ構築支援事業		—	—	—	イノベーション拠点推進部イノベーションハブグループ 電話: 03-6272-4752 メール: ihub@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/ihub/	
ライフサイエンスデータベース統合推進事業	統合化推進プログラム		○ 平成29年12月15日～平成30年1月30日(終了) ※平成29年度の公募の研究開発開始は平成30年4月以降。	— 公募予定なし	バイオサイエンスデータベースセンター企画運営室 電話: 03-5214-8491 メール: nbdc-funding@jst.go.jp https://biosciencedbc.jp/	
未来共創推進事業 (※「科学技術コミュニケーション推進事業」から変更)	未来共創イノベーション活動支援		○ 平成29年11月20日～平成30年1月22日(終了)	—	「科学と社会」推進部 未来共創運営グループ 電話: 03-5214-7493 メール: katsudo@jst.go.jp ＜未来共創イノベーション活動支援について＞ https://www.jst.go.jp/sis/funding/	
	STI for SDGsアワード(仮称)		—	○ 2019年4月～8月頃予定		



# 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) における2019年度公募について

事業名	プログラム名	H30年度の公募		2019年度の公募予定		問い合わせ先
次世代人材育成事業	スーパーサイエンスハイスクール支援	○	平成29年11月9日～平成29年12月18日18時(終了)	○	高大接続枠以外:平成30年11月8日～平成30年12月19日18時(終了) 高大接続枠:平成30年12月25日(水)～2019年2月8日(金)18時 ※高大接続枠への申請を希望する場合は、平成31年1月31日(木)18時まで に要連絡。	<p>&lt;実施希望調書等の提出について&gt; 文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程第二係 電話:03-5253-4111(内線2613) メール:ssh@mext.go.jp</p> <p>&lt;科学技術人材育成重点枠について&gt; 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課次世代人材育成係 電話:03-5253-4111(内線4191)</p> <p>&lt;経費支援について&gt; 国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) 理数学習推進部先端学習グループ 電話:048-226-5683(直通) メール:ssh-info@jst.go.jp <a href="http://www.jst.go.jp/cpse/ssh/">http://www.jst.go.jp/cpse/ssh/</a></p>
	国際科学技術コンテスト支援事業	—		—		理数学習推進部 才能育成グループ 電話:048-226-5665 メール:is-cont@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/cpse/contest/">https://www.jst.go.jp/cpse/contest/</a>
	科学の甲子園、科学の甲子園ジュニア	—		○	開催地について2019年度上期公募実施に向け検討中	理数学習推進部 能力伸長グループ 電話:048-226-5669 メール:gsc@jst.go.jp <a href="http://koushien.jst.go.jp/koushien/">http://koushien.jst.go.jp/koushien/</a> <a href="http://koushien.jst.go.jp/koushien-Jr/">http://koushien.jst.go.jp/koushien-Jr/</a>
	グローバルサイエンスキャンパス	○	平成30年1月31日～平成30年3月15日(終了)	○	2019年1月18日～2019年3月1日	理数学習推進部 能力伸長グループ 電話:048-226-5671 メール:fsp@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/cpse/gsc/">https://www.jst.go.jp/cpse/gsc/</a>
	ジュニアドクター育成塾	○	平成30年1月16日～平成30年2月16日(終了)	○	2019年1月11日～2019年2月22日	理数学習推進部 能力伸長グループ 電話:048-226-5671 メール:jyoshi-koubo@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/">https://www.jst.go.jp/cpse/fsp/</a>
	女子中高生の理系進路選択支援プログラム	○	平成30年2月23日～平成30年3月23日(終了)	○	2019年1月下旬～2019年3月上旬予定	理数学習推進部 能力伸長グループ 電話:048-226-5671 メール:jjissen-koubo@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/">https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/</a>
	アジアサイエンスキャンプ	○	平成30年4月2日～平成30年4月27日(終了)	○	2019年4月上旬～2019年4月下旬	理数学習推進部 才能育成グループ 電話:048-226-5665 メール:intlcamp@jst.go.jp <a href="https://www.jst.go.jp/cpse/risushien/asc/">https://www.jst.go.jp/cpse/risushien/asc/</a>
日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)	○	平成30年1月29日～平成30年2月28日(終了) 平成30年3月1日～平成30年5月31日(終了) 平成30年6月1日～平成30年8月31日(終了) 平成30年9月1日～平成30年11月9日(終了)	○	2019年1月30日～2019年3月4日 2019年3月5日～2019年6月3日 2019年6月4日～2019年9月2日 2019年9月3日～2019年11月6日	中国総合研究・さくらサイエンスセンター 電話:03-5214-8996 メール:ssp@jst.go.jp <a href="http://www.ssp.jst.go.jp/index.html">http://www.ssp.jst.go.jp/index.html</a>	
プログラム・マネージャー(PM)の育成・活躍推進プログラム	○	平成30年4月24日～平成30年6月5日(終了)	○	2019年4月下旬頃公募開始予定	イノベーション人材育成室 電話:03-5214-8446 メール:innov-jinzai@jst.go.jp <a href="https://pm-jinzai.jst.go.jp/">https://pm-jinzai.jst.go.jp/</a>	